

しんあい

季刊

2007年(平成19年) 10月15日発行 第64号 編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10

TEL 042-366-0080

多摩同胞会のホームページをリニューアルしました。

<http://www.tama-dhk.or.jp/>
をぜひご覧下さい



◀ 府中市野口市長、府中市議会高野議長から府中市最高齢106歳のお祝いをいただきました。両隣りは100歳と105歳。それぞれご家族もご一緒に。
(泉苑)

こちらは千代田区石川区長より95歳のお祝いをしていただきました。▶
(かんだ連雀)



介護に関するご相談は無料ダイヤルで!

- 泉苑在宅介護支援センター
☎ 0120-6540-24
老後支援 24時間
- あさひ苑在宅介護支援センター
☎ 0120-2942-24
福祉にっこり 24時間

- 多摩同胞会の基本指針
利用者に深い共感をもつ
地域の方々に感謝する
- 介護保険を考える25
- ホームページリニューアル!!
- 施設だより「人気もの」

利用者に深い共感をもつ

複合施設として

岩本町ほほえみプラザの複合施設としての取り組みやケアについて紹介します。

一人暮らしのAさんは肺がんを患い、介護保険のヘルパーを週に一度利用していましたが。長年住み慣れた千代田区を離れがたいの思いから、ケアハウスいわもとに入居し、趣味の音楽会や展覧会に出掛けるなどして過ごしていました。入居1ヶ月が過ぎた頃、Aさんは入院することとなりました。入院後、「病状の改善は見込めない」と主治医から話があり、「退院してケアハウスに戻れないだろうか」というご家族の要望がありました。しかし、ケアハウスは

もともと設備的にも職員配置上も常時介護をするような体制にはありません。不安と葛藤がありました。Aさんを迎えようとする職員がまとまりました。まずショートステイの利用中、Aさんの体の様子や、どのようなサービスを必要としているのかを確認しました。ケアハウスに戻ってから、ほほえみプラザとヘルパー、訪問看護師とで連絡ノートを作り、Aさんの状態を知ることが出来るようにしました。

ケアハウスに戻ってから10日程経った頃容態が悪化し、主治医と確認後救急車で病院へ行き、翌朝眠るようになりまして。

Aさんのように、最期のときをケアハウスに戻って過ごせたのは、1つには始めから短期間であるとみなされていたこと、また介護保険のサービスも使っていたこと、ほほえみプラザが様々なサービスを持つ複合施設であり、それぞれの事業の職員が互いの事業を理解し、共に支え合おうという協力体制があったことで可能になったのだと思います。

今後ほほえみプラザの機能を活用し、安心して住み続けられるように、少しでもお力添えしていきたいと思えます。

（岩本町ほほえみプラザ・稲葉悦子）



本当はつながりをもちたいの

2年余りかけてやっと辿り着いたPさんのお城の中は、十数年間捨てられることになった新聞紙や生ごみが畳から1m以上堆積していました。四畳半の真ん中が盆地のように凹み、そこで猫のように背を丸めてPさんはニッコリと微笑みました。「お茶を飲みなさい」。どんなに苦労して買い求めたのか、何年ぶりかで迎え入れる客のために飲み物まで用意されていたのです。私はこの時、彼女が決して誰とも繋がりたいかと思っているのではないことが理解できました。新聞紙の小高い丘の上に座っていた私が思

い切っごみ片づけを申し出ると、彼女は意外にも「お願いします」と答えたのでした。

私たちが在宅介護支援センターが地域にお伺いすると、長い間生きていく中で何らかの理由で家族と分かれ、たった一人で頑張っている方にお会いすることがあります。そんな方が「誰の力も借りずに生き、そして死にたい」とおっしゃった時、私たちは語るべき言葉を持ち合わせていません。しかし、出来ることはあります。ぎゅっと手を握り、そして爪を切っ差し上げるのです。時間をか

けて、ゆっくり10本の指の爪を切り、皺だらけの手をひるげ、その方の心と同じ様に尖っていた爪をやすりで丸くしている時に、お話を始めてくれたならしめたものです。私がお後Pさんの爪を切ったことは言うまでもありません。

現在はあさひ苑に入所している彼女は、今では丸くなった爪を担当の職員に切ってもらっています。

（あさひ苑・清野哲男）

法人の基本指針をお伝えします

体験的福祉

1946（昭和21）年に網代母子寮（現東京都網代ホームきずな）を開設する前年に、前理事長は夫と長男を相次いで亡くしました。1960（昭和35）年に現在の信愛寮の前身の保護施設を開設したときには56歳、1975（昭和50）年に特別養護老人ホーム信愛泉苑を開設したときには71歳でした。つまり自分が母子家庭になって母子寮をつくり、自分が高齢者になって老人ホームをつくりました。文字通り「体験的福祉」であり、自身の実感を通して、ご利用者に深い共感をもっていました。

（事務局・青木志乃）



運動会にも参加していた前理事長（昭和50年代）

次号に続いて

「しなやかさ」と「たくましさ」

母子生活支援施設には様々な事情で利用している母子世帯が生活しています。外国籍の方も少なくありません。異国の土地で今まで頼りにしていた夫と突然、何らかの事情で離れ離れとなり、言葉が不自由な中で幼子を抱えて生きていかなければならぬ。ましてやオーバーステイでは心細さや不安感はいかばかりでしょう。入所当初は様々な悲痛な訴えを聞きます。「日本で子どもと一緒に生活し、安心して子どもを育てたい」と言う思いが彼女らの切なる願いなのです。その願いを可能にするために、彼女らの母国の支援団体の方々に協力を依頼し、大使館や東京入国管理局など今まで

足を踏み入れたことのない世界に、私は彼女らと行動を共にする経験を得ました。それにより日本に入国する側の目線で日本社会を見ることができ、日本人男性と結婚し、その後困難な状況に陥った外国人女性の立場に寄り添うことができました。彼女らの外国で困難な状況にあっても希望と明るさを失わず生きようとする力強さや粘り強さ、子どもの養育のために言葉、習慣、文化などが異なる社会に懸命に溶け込もうとする「しなやかさ」と「たくましさ」に、私は人間の美しさを見出し、すがすがしい感動を覚えています。

（きずな・五十嵐可南子）



すくすく育って、大きくなーれ

介護者が変わることで

「助けてください！」訪問した玄関先で、いきなりSさんのご主人は土下座したのです。私が、あさひ苑在職時のことです。疲れきったご主人の顔、荒れた家の中を見て「私たちに何ができるだろう…」と考えあぐねたものでした。

「何が一番つらいですか？」の問いかけに、ご主人の答えはこうでした。「好きで結婚した相手です。夫は多少は我慢できます。でもね、この頃うちの奴私の顔見ても言うんですよ。『あなた誰？もうすぐ主人が帰ってくるのよ。出ていってちょうだい！』」ご主人の手が震えていました。

「どうしよう…」重度の認知症であったSさんを上手くお世話できず、私たち職員

は悩みました。Sさんが怖いと、デイを休む利用者もいました。

ある日、ご主人から手紙が送られてきました。「相変わらず妻は私の顔を見て『あなた誰？』と言います。思わす手を上げたこともありません。我慢できなかつたのです。許せなかつたのです。でも、この頃どう言っこうにしました。」

「ごめんね。今出て行くよ。」そして、10分ほどして戻ると、妻が心配そうにこう言ってくるのです。「あなた遅かったじゃない。」と。職員の皆様ありがとうございました。ようやく分かりました。ボケを介護することは、介護者が変わることでなんですね。」読んだ誰もが涙し

した。

平成12年、足を骨折し老いたSさんが泉苑に入所しました。「これも縁ですね。」ご主人と5年ぶりの再会を喜び合いました。しかし、わずか3年後、Sさんは食事を詰まらせ逝ってしまったのです。「残念です…」ご主人の一言に、Sさんへの愛情の強さを見た思いでした。

私は、その日家に帰って泣きました。私たちの力の何と小さいことか。共感する痛みを分かち合うとは、何と何とむずかしいことか。自問自答しながらも、このことを大切にして今日も利用者に向かい合っています。

（泉苑・高谷敦生）

地域の方々の感謝する



10周年を迎えます



地域に根づいたオープンルーム

平成8年2月に子ども家庭支援センターしらとりが開設されました。開設以来、さまざまな子育て支援事業を実施してきましたが、中でも地域の子育て支援を目的とした「オープンルーム」は、多くの人に親しまれてきた事業です。そんな歴史あるオープンルームを設立当初から支えてくださっているのが、府中市民生委員やボランティアの方々です。月2回、各地区4名の民生委員さんと3名のボランティアさんが参加していただき、参加者と同じ輪の中で一緒に遊びながら、新米ママたちのちょっとした相談を親身に

なっている聞いていただいています。時には前に出て踊ってくださったり。そんなあたたかい雰囲気、オープンルームの人気の源です。

昨年、オープンルーム設立10周年を迎えました。今まで関わってくださった方々に感謝を込めて、10年史を発行する予定です。今後変わらぬ地域の皆さまに愛され、信頼され、あたたかい雰囲気のオープンルームであり続けたいと思います。

(しらとり・志村美由紀)

お年寄りと子どもたち

「いんにちはー」大きくそしてかわいい声がたくさんデイサービスの活動室に聞こえてきます。毎月第2水曜日、いすみこどもプラザの子どもたちがやってきてデイサービスのご利用者と一緒に活動を行っています。

いつもは固い表情のAさんもこの日は穏やかな表情になります。子どもたちも始めのうちは緊張した顔をしていましたが、そこは子ども。すぐに慣れて楽しんでいきます。

自分の孫やひ孫と同じくらいの子どもたちを相手に一緒にゲームしたり、笑っ



孫は子より可愛いといひますね

地域を開拓しながら

府中市武蔵台の地に前理事長が白鳥寮を建設した1953(昭和28)年は、府中市制に移る前年、北多摩郡府中町横街道という地番でした。周囲は鬱蒼とした原野であり、前理事長は知人を東京電力に訪ねて、電気をひいてもらうところからの出発でした。電話も、国分寺局からひきました。雨が降ると、敷地一面が泥沼化するため、側溝を敷設してもらったなど、原野を開拓しました。武蔵台地区の自治会や老人クラブの設立も率先して進めて、また自らもメンバーとして活動しました。このよ

うに地域を開拓しながらの施設建設でした。

また、消防や防犯、刑務所の篤志面接委員や保健司など地域活動にも積極的に取り組むなかで、母と子やお年寄りのいのちや生活を預かっている立場としては、いかに地域とのつながりが大切ということを実感されていました。

そして、1973(昭和48)年から信愛寮苑の建設を目指して、バザーを開催しました。出品した多くは地域のみならず、ご寄贈いただき、また当日はお客様としてご



昭和50年第3回バザー

地域に溶け込む施設として

緑苑の歴史は昭和35年に開設した養護老人ホーム信愛寮が府中市緑町の現在地に移転した時から始まります。老いてもなじみの人たちが助け合って暮らせるように、新施設は養護老人ホームに小規模特養の信愛緑苑を併設し二つの施設を総称し「緑苑」と呼ぶことになりました。住宅地の中に移転したため、開設前は地域の方々の反対も強く説明会を行い何とか皆様の同意を得て建築が始まりました。当初は地域の方々は「もし火災になったら?」「救急車の出入りが多くなるのか?」「認知症の方はいるのか?」等々戸惑い



今では緑町の名物、納涼祭

と不安で一杯だったとお聞きしています。移転後は、自立短期入所サービスや地域懇談会・昼食会・運営協議会の開催、地域との防災協定を結びながら少しずつ理解を深めて頂きました。また、老人会・自治会・地域福祉行事・小

学校行事等の地域活動へ積極的に参加しました。地域と共に歩んで来た結果、職員意識を高められた事・施設内に活気が出て明るくなった事・利用者の生活意欲が向上した事等いろいろなメリットが生まれました。平成15年には在宅介護支援センターを開設し、ますます地域の中の施設としての役割が大きくなりました。これからも地域と共に歩み続ける緑苑です。

(緑苑・平岡貴弘)

お互い助け合って子育てを

府中市ファミリー・サポート・センターは、地域の方々と助け合って子育てできるよう、子育てのサポートを必要とする方と、サポートして下さる方との橋渡しをしています。

赤ちゃんをいっとき預かってもらいたい、習い事の送迎をして欲しい、保育園のお迎えが間に合わないときに代わりに行ってもらいたい…センターには子育ての手助けが欲しい依頼会員さんから様々なお申し出があります。

そんな時、お子さんを預かったり、送り迎えをして下さる提供会員さんは、

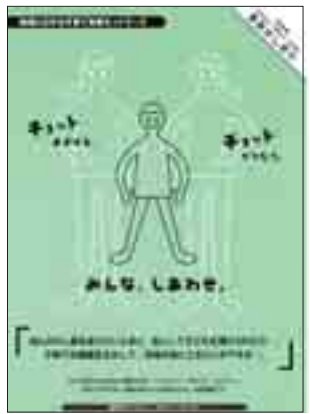
子どもが大好きな市民の方々です。子育て中の方ももちろん、子育てがひと段落したら、さらにお孫さんの世話もしながらセンターで活躍中の方もいらっしゃいます。

ファミリーサポートは、ご協力くださる地域の方々のお力なくては成り立たない事業です。子どもの命を預かるという大切な役割を果たして下さる地域の提供会員さんの温かい目と手があつてこそ、安心して子育てができます。

雨の日も風の日も、サポートして下さる提供会員さんに、アドバイザー一同

感謝の気持ちでいっぱいです。

(たち・高橋明子)



チョットあずける、チョットてつだうが言葉

介護保険を考える 25

鈴木恂子



2007年8月24日(金)付の朝日新聞は、朝刊(14版)12頁にて「2006年度の介護保険利用者が2000年介護保険制度開始以来、初めて減少した。これは2006年度4月から軽介護度者への福祉用具の貸与を制限したことなどが原因」と報じています。

2006年4月の制度見直しは、従来の要介護1の方を含めて、要支援と区分された方に予防給付という新たな給付枠をつくり、この区分の方は全て予防目的のサービスが給付されることになりました。利用者にとってはサービスの使い勝手は不便になったとともに、事業者にとっても多くの制約を受け窮屈なサービス提供になりました。併せて予防給付の報酬は月単位になりましたので、自ずと利用回数も抑えられます。そして軽介護者が多い事業者は事業として成り立たず、閉鎖する事業者や離職するケアマネジャーやヘルパーが急増しました。

こうした背景のなかでの利用者減少であり、介護費用の減少です。

2006年4月からの新介護保険制度は急増する高齢者予備軍世代、そして2000年から軽介護度者が増え続けている危機感から財源確保、制度持続可能を目的に見直されました。その意味では、制度見直しは目的を達成しつつあるといえるかもしれませんが、しかし、介護保険制度への信頼感は利用者からも事業者からも働く人々からも失いつつあります。

介護職員もホームヘルパーもワーキングプアの仲間入り。賃金の安さに加え、利用者の要望に応えられない仕事のもどかしさ。介護を必要とする方を支え、喜んでいただきたい、安心していただきたいという素朴な願いは、「適正な介護」に打ち消されてしまいました。介護報酬を引き上げ、介護職員やヘルパーの件数を向上させ、誇りのもてる職業にしたいという願いは、「財源をどう確保するのか」「これ以上保険料はあげられない」という声に返す言葉を失います。しかし6兆円を越す財源が費やされているのです。どうすればよいのでしょうか？

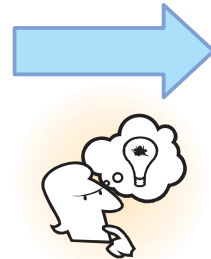
こんな私案はいかがでしょうか？どうぞ一緒にお考え下さい。

【試算の根拠】 上記朝日新聞による2006年度の概況

介護費用(利用者負担を含む): 6兆1,724億円 (A)

利用者数 介護予防サービス : 80.2万人
 介護サービス : 410.6万人
 合計 : 490.6万人 (B)
 (両サービスの重複分を含む)

一人当たり利用額 2007年4月: 14.89万円
 (1ヶ月) 2006年4月: 14.53万円



【試算の条件】

一人当たりの利用額 月額: 約145,000円
 年額: 1,740,000円 (C)

- ・介護職員(ホームヘルパー含む)人件費を年額500万円(D)と仮定する。
- ・一人の介護職員がおおよそ3人の利用者を担当することになり、これを基準とする。



【試算の結果】

介護保険制度のサービスを介護職員に限定して考えると、
 6兆1,724億円(A) / 500万円(D) = 123万人
 123万人の正規職員を雇用できることとなります

仮に2006年度利用者数(B)のうち、重複分を除いた実人数が450万人と推定すると、450万人 / 123万人 = 3.6人
 利用者3.6人に対して1人の介護職員が担当することになります。

この試算を基準にして、介護職員1人に対する利用者数を左下の表にまとめてみました。

利用者介護度	介護職員配置		日勤帯のみ 9時~17時(8時間+休憩1時間)		早朝~夜間帯を含む 7時~19時(12時間)		深夜を含む 24時間	
	利用者数	介護職員数	利用者数	介護職員数	利用者数	介護職員数	利用者数	介護職員数
要介護5	1	: 1	1.5	: 1	3	: 1		
要介護4	2	: 1	3	: 1	6	: 1		
要介護3	3	: 1	4.5	: 1	9	: 1		
要介護2	4	: 1	6	: 1	12	: 1		
要介護1	5	: 1	7.5	: 1	15	: 1		
要支援2	6	: 1	-	-	-	-		
要支援1	8	: 1	-	-	-	-		

■人件費500万円のモデル(年額)

法定福利費源泉税 800,000円
 本人支給額 4,200,000円

賞与を年間4ヶ月と仮定すると、月額合計額は約260,000円になります。これには、通勤・変則勤務・超過勤務・家族・夜勤等の諸手当が含まれるので、基本給は20~22万円程度となります。正規職員の平均人件費として、500万円は決して高いものではなく、確保したい水準です。



上記は、要介護度と介護時間を基準に、介護職員(ヘルパー含む)の担当基準を想定した表です。450万人の利用者に6兆1,724億円もの費用をかけながら、ケアプランをたてるケアマネジャーも、サービスを提供するヘルパーも、そして利用者も、それぞれの立場で不満をもっている制度は、やはり制度設計の基本から、見直す必要があります。

一人の利用者に費やされる年平均170万円もの給付費用はもっと生かされなければなりません。そのためには 給付の基準をシンプルに誰にもわかりやすくすること、決まりや制約でしぼるのではなく、現場で働く人々の力を信頼し、専門性を発揮できるように裁量権を与えること、その上で、利用者にかかわってケアプランの適切化やサービスの質の向上を指導することも考えられます。

現行の調査 要介護認定 ケアプラン サービス提供という流れの下では、制度の持続のために、財源確保のために、「給付の適正化」を目標に、調査の適正化、認定の適正化、ケアプランの適正化、サービス提供の適正化とそれぞれの段階での適正化がますます強化され、給付の抑制が進むばかりです。

そして利用者の生活は制度に合わせることになり、合わない部分は自己負担ということになります。これでは何のための介護保険制度なのか、保険料は何のために納めているのかという制度不信を高める結果となり、人材も離れていき、悪い循環が加速します。

直接従事する職員が専門性を発揮しつつ納得できるサービスを提供し、利用者満足が得られるような利用者本位の制度を実現するには、利用者の立場から、働く人々の立場から提案し、議論する必要があります。

今まさに抜本的な制度の見直しが求められている介護保険制度です。

このままでは、介護の社会化や老後の安心を期待し、保険料を負担している高齢者やそのご家族は老いることへの不安、介護の負担からは解放されません。

今回はあえて思い切ったひとつの提案をいたしました。利用者の立場から、働く立場から、様々な提案をするきっかけにいただければ幸いです。

メニューは常に左側に表示されます

採用情報も職員のメッセージ等充実しています

季刊しんあいのバックナンバーはこちらです

地図はわかりやすく、印刷もできます

理事が交代でメッセージをお送りします

法人ブログ

地図上からも施設を検索できます

FLASH(動画)は歴史と理念を表現しています

法人事務局及び各施設からの「おしらせ」です。クリックすると詳細が表示されます

施設名や事業名をご存知なくても必要な情報を簡単に得ていただけるようサービスガイドを工夫しました

法人ブログ(日記)の最新記事が一部表示されます。クリックすると全文が表示されます

法人と各施設のホームページを9月より内容とデザインともに全面的に刷新いたしました。今回のリニューアルでは、「より分かりやすく見やすいホームページ」を目標に、各施設から選任された担当者が一丸となって取り組みました。

どなたにも簡単に必要な情報を得ていただけるようボタンは大きくし、文字表示も大きく変更できるようにしました。他にも皆様から親しみを持っていただきたいの願いをこめて工夫を凝らしました。概ね好評を得ており、担当者一同ホッと胸をなでおろしております。

初めての方にはサービスガイドメニューから必要な情報を簡単に選択していただけます。交通案内も分かりやすく作成いたしました。印刷しても見やすく表示されます。ご利用者やご家族のみなさまにはもっと身近に感じていただきたいという思いから、「法人ブログ(日記)」や「おしらせ」「季節のお便り」を定期更新します。

私どものホームページに完成形はありません。理事から職員一人ひとりまで法人全体が参加し、躍動感のある生きたホームページを作り続けます。ぜひ、お時間の許す限り定期的にご覧下さい。

私たち担当者は公開間際まであれやこれやと知恵を絞り、意見を出し合いました。その作業過程で、多摩同協会が培ってきた歴史の重さや各施設が担っている役割や地域性、ご利用者の方々はそれぞれ個々のニーズをお持ちだということを再認識しました。日々の業務の中ではなかなか意識しないことですが、今も昔も変わらず多くの方々が当法人を必要としてくださっていることや多くの仲間が共に多摩同協会を支え、それぞれに「家族」を支援していることを忘れてはならないと思いました。

なお未筆ですが、写真撮影や寄稿を快諾してくださいましたご利用者やボランティアのみなさま、並々ならぬ尽力をしてくださった社団法人日本広報協会のみなさまに心よりお礼申し上げます。今後皆様のご意見を拝聴しながらよりよいホームページを創ってまいりますので、ご愛顧のほどよろしく申し上げます。

(伊能晴美)

施設

だより

人気もの

個性的な「人気者」や
ホッと和む「人気もの」
各施設から紹介します！

たち

「みんなの大好きな 大きな木」

ひろばの中央に、子どもたちに大人気の大きな木があります。10時・11時：と定時になると、その大きな木の時計から、小鳥が出てきて踊りだします。赤、黄、青・・・と順番にでてくる鳥の登場を待ちわびていて座って待っている子どもたち。10分前、5分前、いよいよ鳥がでてくると、「わーい」「鳥さんだあ」と歓声があがり、音楽とともに、一番前に立って踊りだすみんなの姿があります。手拍子をしたりジャンプをして、とっても楽しそうです。他の場所で遊んでいても、時計の音とともに各場所から集まってくる様子は、とっても可愛らしくウキウキ気分が伝わってきます。そして、ひろばの中は、その時間、とてもあたたかいほのぼのとした雰囲気になります。最後の鳥さんが見えなくなると、「ばいばいまたね～」と手を振り、見送る姿が…。じっと時計を見つめる子どもたちの瞳はきらきらしていて、また会いたいな、見たいなあという思いでいっぱいです。笑顔がたくさん見られるこの時間は、私たちもとても嬉しい時間です。ひろばの大きな木はみんなと仲良しになり、見守ってくれるはずですよ。そして、今後、みんなの笑顔がたくさん見られることを願い、大活躍してくれることを思います。

(ひろば担当 金子智暁)



町

「ひと時の音色」

岩本町のデイサービスのフロアでは、昼食を食べ終えた頃、アコーディオンの音色が奏でられます。そのアコーディオンを奏でているのは、デイサービス・ショートステイなどの送迎を担当している運転手Tさんです。ご利用者は、その音色を聴きながら目を閉じてうたた寝をしたり歓談に花を咲かせたりなどして食後のひと時をそれぞれゆったりと過ごしています。ほぼ毎日練習をし、昔から親しまれている曲や今流行りの曲など、日に日にレパートリーを増やしているTさんは、実は人前は苦手とのこと。あまりの緊張に演奏を間違ってしまうと顔を真っ赤にして、頭「ポリポリ」苦笑い。言葉数の少ない、照れ屋な方です。

ある日、アコーディオンの演奏はお休みでした。すると、帰り際にご利用者のAさんが「今日は、何か物寂しいと思っていたら、演奏が聴こえてこなかったからですね。」と一言。

お昼のひと時、いつの間にか聴こえ始めるアコーディオンの音色が、今ではご利用者・職員の癒しのときになっているのだと思います。

この秋は一体どんなメロディーを奏でてくれるのでしょうか。

(介護員 深水淳子)



きずな

「毎日大忙し！」

保育室では使わない日はないくらい毎日大忙しなのがこの大きなブロック。保育室ではひときわ存在感があり、子どもたちから絶大な人気を集めています。木目調ですが、中身はポリエチレンでもとても軽く柔らかいので、小さい子どもでも楽々持ちちゃいます。

使う子によって様々な形に変えられるこのブロックは、車になったり、お城になったり、ままごとのテーブルやベッドになったりと変幻自在。保育室に子どもたちがやってきて一番先に駆け寄り「今日はこれでバイクを造ろうよ」「えー、お家にしようよ」などと元気な声が飛び交います。大人の手を借りずに自分たちの力だけでどんどん作り出していく…みんなの発想の豊かさには毎回ビックリしてしまふほど。どんな形を作り出すか、毎日楽しみです♪

(保育士)

小川智恵



連雀

「天使の歌声」

「幼馴染のあの山の川」
どこからか素敵な歌声が聴こえてきます。かんだ連雀6階フロアへ新たに入居されたT様の歌声です。

T様は歌が大好きで、いつも歩きながら笑顔で歌っていらっしやいます。

優しい伸びのある声は、天使の歌声と聴き間違えてしまいそうです。T様が歌い始めると、職員、ご家族、誰もがその歌声に聞き惚れてしまいます。

T様が入居されてから、明るかったフロアがさらに明るくなりました。今では、かんだ連雀の人気者です。

今日も耳を澄ませばT様の歌声が聴こえてきます。みなさまも、かんだ連雀にお越しの折には、ぜひ天使の歌声を聴いてみてください。こころがほっと暖かくなること間違いなしです。

(介護員 高橋和博)



緑苑

「いろいろ工夫
しています」

「今月はお月見うさぎさんね。仲秋の名月だものね」と御利用者の声が聞こえてきます。1階の地域交流スペースの壁に毎月、職員がその月に合った飾り物を掛けているのです。

年を重ねて外出する機会が少なくなったご利用者は「なかなか季節の移ろいを肌で感じることができないのよ」と話されることもあります。

飾り物ですので肌で季節を感じていただくことはできません。

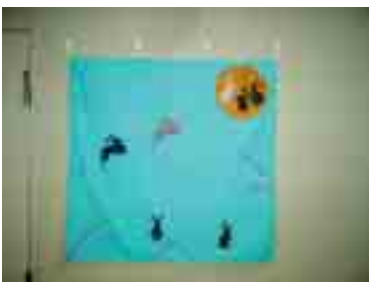
しかし、ご利用者の方々が喜んで会話している光景を見ると、職員もまた嬉しく思い、来月はどんなものにしようかと張り切っています。

また、施設内には「今月のこよみ」を表にして掲示しています。

土用・立秋・十五夜はもちろん、青森のねぶた祭りや高知のよさこい祭りの日程も記載されています。やっぱり8月は全国的に祭りが多いわね。青森のねぶたさんだつて「ご利用者の話題になります。緑苑のちよつとした人気者です。」

(介護員)

平岡貴弘



あさひ苑

「しんまう どき〜」

「やっぱり、明石のはひと味違う。ダシにつけるんや。アンタも向こうに行くことがあったら、いっぺん食うてみ？うんまいでえ〜。」と言つと、近くにいたお年寄りが、「あんたも、好きねえ。」その場が、笑いの渦に包まれました。

Yさんが、お馴染みのハスキーボイスの関西弁で語るのには、「明石のタコ焼き。」

思えば私も、以前Yさんにこんな質問をしたことがあります。「神戸牛とタコ焼きどっちがお好きですか？」と聞くと、「タコ焼きに決まってるやろ。」と即答でした。神戸出身の94歳、身体は他のお年寄りより小柄ですが、「来る者拒まず。」という姿勢のYさんは、その楽しい語り口もあいまって、ホームの人気者です。

（介護員 三本貴史）



しらとり

「しづらな瞳に 癒されます」

しらとりの人気者と言えば、この「プリードッグ（？）君」です!!
玄関前の公衆電話がお決まりの場所。入ってくる人達をつぶらな瞳で見つめ、子どもから大人まで思わず手に取ってしまうほどの愛くるしさです。でも、なぜこんな場所に：：??

それは約半年前、倉庫の整理をしていたところ、プリーリー君は発見されました。薄汚れたプリーリー君。少し汚かったので処分することにしたのですが、偶然S職員がそれを見つ「あ〜ら、こ〜んな可愛いのに。」と言つて、ポンツと置いたところが公衆電話でした。以来、誰も移動させず、いつのまにか定位置に。受話器の高さにもぴたりで、まるで誰かと話しているようです。

そんな姿が人気となり、子ども達が駆け寄ってきます。玄関のそばなので、緊張して入ってくる子ども達にも笑顔を与えてくれます。

しらとりにいらした際は、ぜひプリーリー君を見つけてください。皆さんも癒されること間違いなしですよ!

（少年指導員 志村美由紀）



泉苑

「ひとひら ふんわりとこも」

泉苑には9月に105歳になられた笑顔の素敵なFさんがいらつしゃいます。とてもしつかりとされていて、車椅子へ移乗される時は「うんとごっこいしょ」と頑張つて立つて下さいませ。

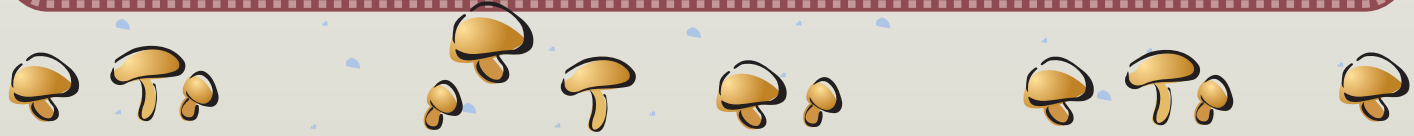
そんな頑張屋のFさんをご紹介します。
普段のお食事はペーストの為「おいしいくないねえ〜もうお腹一杯。」と小食なのが辛いのですが、毎月2回程息子さんが持つてきてくださる「なぎ」となるとハロリと召し上がります。
色々な大好物があると毎日召し上がって頂けるのに、こればかりは仕方がありません。
ご家族も毎日交代で娘さんや息子さんが面会に来られます。

こんな素敵な家族がいらつしゃるのはFさんの愛情をたっぷり受け継がれたからでしょう。見ているだけで心暖かくほのぼのとしてきます。

Fさんこれからも、
「ふんわりとこも」
と乗り切つて行きま
しょう。

やっぱり、こんなに一生懸命なFさんは泉苑の人気ものです!

（介護員 保 美佐代）



ボランティア紹介

（緑苑）

歌つて長生き

みかんの花が咲いている
今日もカラオケサークル
のみなさんの元気で明るい
歌声が聞こえます。

絆カラオケ愛好会は山田一丸先生のご指導のもと、毎月二回開催されるカラオケサークルです。毎回、山田先生がテープにカラオケ曲を数曲録音され器具も持ち込みで熱心に指導して下さいます。歌詞カードまで先生手作りです。音階もみなさんの声が出る範囲で調整してくれます。

山田先生は自分もみなさんと楽しみながら嬉しい時間を過ごさせていただいているのだからと言って、ボランティアで来ていただいているのです。御利用者のみなさんも本当に毎回毎回楽しみまわっております。山田先生、これからもカラオケサークルをよろしく願います。

（緑苑 平岡 貴弘）



前列左から2人目が山田先生

御寄贈ありがとうございます（敬称を省略させていただきます）

あかしや会 秋山酒店 アゼリヤ会中山三男 イト
 ーヨーカ堂労働組合府中支部 植田利一 大能力
 小野恭子 小野正夫 梶由昭 三晃須藤光忠 (株)サ
 ーオリオビュロランド 株式会社ジャパンエナジー
 金子廣子 北原青果店 北山ホームサービス 久
 保田摩耶子 栗林正昭 小島ユミ子 駒紀友花会
 小山満里子 坂本文子 坂本建具店 塩川義雄 塩
 澤佳津子 嶋田慶子 ジャパンエナジー 進藤宏道
 新日鉱ホールディングス株式会社 鈴木芳子 関
 七郎 浅間町三丁目自治会 浅間町二丁目自治会
 浅間町婦人会 高砂会 田辺十二子 谷越昇 ちど

り会 筒井孝敏 東校会 東京善意銀行 東京都食
 肉生活衛生同業組合 東京都立誠明学園 西町会
 西原自治会 白鶴舎クリーニング 浜田幸房 比留
 間敬夫 古澤弘江 松井洋治 三菱商事 緑町三丁
 目自治会 緑町自治会 緑町自治会会長 三輪武志
 蔵台小学校 むさしの会 村井君 村山繁太郎 望
 月友子 安村久泰 山内俊子 山丸芳男 弓削田恵
 美子 吉田ヒサ子 らいおん亭園分寺店 緑寿会

(平成19年6月8日)

ボランティアの御協力ありがとうございます（敬称を省略させていただきます）

会田久枝 青木成江 青山幸子 赤田美恵子 赤林
 好子 秋葉淑子 秋山恵美子 浅野貞子 浅見スジ
 田アヤ子 飯塚喜奈子 五十嵐龍太 有本陽子 飯
 口有為子 池本寿子 石井宏 石井悠斗 石黒富佐
 江 石坂勝世 石坂規子 石原みつる 市川アイ
 子 市川明子 市川知子 一木チドリ 伊藤うめ子
 伊東富美子 井上和子 井上宏子 井上陽子 井
 上圭典 井上令子 井上摩利子 井上隆子 今喜
 多トシエ 上沢美和子 上田悦子 上野玲子 上原
 智美 植松八千代 鶴沢シズ 宇高美江 内堀美喜
 梅本紀海子 江口亜津子 海老沢信子 海老原志
 遠藤陽子 遠藤洋子 遠藤みつよ 遠藤泰子 大貫
 裕子 大橋正子 岡田おかり 緒方シゲ子 緒方智
 恵美 岡田基子 岡田ティ子 岡野玲子 沖音染歌
 室 荻野和子 小倉道子 海江田紀久子 加々見千津
 子 尾崎ヨシ子 小澤アイ子 小澤末子 尾崎角子
 子 加々見夏樹 笠間豊子 梶田慶子 鹿島千重子
 糟谷麻子 片桐キミ子 加藤静 加藤博子 加藤ま
 き 加藤トト子 加藤洋子 学校図書館を考える会
 金子恵子 上村峰高 亀岡紀知信 川崎綾子 川崎
 崎和代 川瀬芽衣 城所栄子 木村伊都子 木村幸
 子 木本敦子 日下部恭子 草野美鈴 久保田茂男
 窪田正紀 久保田摩耶子 倉持淳 栗原未美 警
 察学校 弦間まさ 小出新一 小出由美子 小岩井
 雅人 河内ヒサ 河野トシヨ 小坂緑 小島百合子
 小谷文子 後藤隆子 小堀いさ子 小林久子 小
 林真弓 駒紀友花会 五味佑子 紺野和子 今野幸
 子 ヴォーポレイション 東京駅一番街店 ザ・ポテ
 イショップ 六本木本店 齊藤孝子 佐伯ポテ
 シ子 酒井和子 酒井かつ子 酒井純子 坂口愛子
 阪野敬太 貞方利恵 佐藤秋子 佐藤英子 佐藤
 公子 佐藤ななか 塩入圭子 塩川義雄 重田文子
 品田啓子 柴田昌彦 島津弘子 島田たす 清水敦
 司 清水文枝 清水よね 下江美鈴 下条イイ子
 白石富美子 白川史哉 進藤サエ子 進藤環子 杉
 江真美 杉本久子 鈴木智久 鈴木昌子 鈴木嘉子

鈴木良爾 角田ミサホ 清野そそ子 瀬戸貞子
 園田英子 園田澄子 平艶子 高橋米子 高鍋恵子
 鷹野榮子 高野晴美 高橋頭一郎 高橋幸子 高
 橋ちよ子 高橋弘子 高橋美智香 高松宣勝 田口
 稔子 竹内範子 竹内由美子 武田敦子 竹松ふく
 辰本ケイ子 田中聡子 田中久美子 田中美智子
 田中光江 田中翠 谷澤ミツ子 田部美智子 ち
 よだ企業ボランティア連絡会 ちよだボランティア
 センター 土屋和子 常木和子 角田友子 角田和
 歌子 手塚正輝 戸井田清子 東樹クニエ 東郷美
 有希 板谷ささき 豊永昌子 中下秀子 中嶋永子
 長島広美 長島敬子 中田愛子 中野悦子 中野喜
 久馬 永野信子 永見聡三子 永野清美 中村フサ
 子 中山康 榎林美枝子 新津好美 西久保長子
 西宮智恵子 二宮澄子 丹生初江 根岸路子 野坂
 昭弘 野坂いく世 野本昭彦 萩村光恵 萩原八枝
 子 橋本節子 長谷川宣子 羽鳥みゆる NPO法
 人花咲き村 濱島節子 羽山直子 早川洋子 原敬
 五郎 原田キヨ 原田康子 肥後住江 平泉順子 福
 平川佐保子 平澤みどり 平野幸子 福土裕子 福
 島シマ 府中六中吹奏楽 船岡栄子 古園美歩 法
 師人富子 堀田武三郎 堀切重明 前田節子 前原
 亮 牧内やす子 牧野新子 町田知行 松浦良枝
 松澤通子 松下朗 松下朋子 松田恵子 松野アイ
 松本みなと 三坂和子 水美智子 水谷静枝 宮
 崎清子 宮崎美知子 宮澤由紀枝 宮下美智子 明
 神淑恵 明神冷子 三輪孝子 村上節 村松穂波
 室敦子 明星学苑インターアクトクラブ 茂木万里
 子 望月友子 本純佳 八木かつ子 矢島道子 矢
 田部末子 柳佳代子 山上涼子 山下優子 山田一
 丸 山田和男 山田佳津江 山田ケイ子 山田サワ
 子 山田シツ 山田順子 山本峰子 弓削田恵美子
 横田公子 吉川孝一 吉田千鶴子 吉田まさこ
 吉田陸子 吉田ヒサ子 米山君子 米山秀子 我妻
 文字 若松春吉 脇山令子 渡辺勇 渡辺キク
 渡辺あき 渡辺暁恵

(平成19年6月8日)

編集後記

施設での季節感を少しでも伝
 えられるようリサーチします。
 浅見達也(あさひ苑)
 しんあいHP両方の担当として
 施設での様子をより伝えられ
 るよう励みます。

光江浩一(あさひ苑)
 季節の変わり目です。しんあ
 い記事も衣替え！乞ご期待あれ
 友利幸恵(かんだ連雀)
 記事を書く大変さともにも
 記事を依頼する大変さともにも
 しています。稲葉悦子(若本)
 私の今の人気ものは最近買っ
 た地デジ対応テレビです。映り
 がきれいです。岸千陽(泉苑)
 食欲の秋。我が家の人気メニ
 ューはさんまの塩焼きと味噌パ
 ター鍋です。山田絵梨香(泉苑)
 しんあいを読んで、季節をた
 つぶり感じてもらえたら嬉しい
 です。志村美由紀(しらとり)
 毎日アンテナを張り巡らせ、
 よりよい記事づくりができるよ
 う修行中です。

小川智恵(きずな)
 網代でもぐくと気温が下が
 り秋の川川敷の紅葉が今から楽
 しみです。若林佑子(きずな)
 壁面のコスモスや落葉を飾り
 入り口からの風が冷たくなると
 府中のヒルにも秋の訪れを感じ
 ます。高橋明子(たち)
 久しぶりにカラオケサークル
 に参加し、大きな声で歌いまし
 た。歌つてもいいですね。

平岡貴弘(緑苑)
 悲願のHPリニューアルが無
 事に公開できて、担当者一同ほ
 つと一安心。しんあいと連携し
 ながら成長するHPを目指しま
 す。青木志乃(事務局)

訃報

あさひ苑元副施設長であり、
 季刊しんあい第5代編集長でも
 あつた安田陸男さんが10月2日
 永眠されました。発行が滞り
 ちがったしんあいは安田さ
 んの力により第24号で復刊し、
 現在に至ります。毎号いただ
 いた励ましのお便りがなくな
 ることが残念でなりません。慎
 んでご冥福をお祈りいたします。
 (上野広美)

特別養護老人ホーム 信愛泉苑
 高齢者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター
 養護老人ホーム 信愛寮
 特別養護老人ホーム 信愛緑苑
 府中市立特別養護老人ホーム あさひ苑
 府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター
 府中市子ども家庭支援センター たつち

特別養護老人ホーム かんだ連雀
 かんだ連雀高齢者在宅サービスセンター
 千代田区立岩本町ほほえみプラザ
 子ども家庭支援センター しらとり
 母子生活支援施設 白鳥寮
 母子生活支援施設 東京都網代ホームきずな

